

ブドウ「オーロラブラック」の着色促進には S-ABA液剤の果房散布処理が有効です



図1 収穫時の果房の様子
(上：S-ABA区、下：無処理区)

表1 「オーロラブラック」における
S-ABA処理が着色及び青粒
の発生に及ぼす影響

処理区 ^z	果皮色 (C.C.)	青粒 ^y (粒/房)
S-ABA	8.6	0.03
無処理	7.0	0.40
有意性 ^x	**	ns

^z S-ABA区は着色始期にS-ABA1,000ppm液を果房に満遍なく散布

^y 果頂部に青みが残る果粒の数

^x **は1%水準で有意差あり、nsは5%水準で有意差なし

開発のねらい

本県育成の「オーロラブラック」は、大粒、高糖度で脱粒しにくいことが特長です。しかし、着色期の高温や過度な大粒化によって十分に着色しないことがあります。そこで、着色促進効果が期待されるS-ABA（天然型アブシシン酸）液剤を着色始期に果房へ散布し、着色などの果実品質への影響を明らかにしました。

新技術の概要

- S-ABAを果房に散布すると、果皮の着色が促進され、収穫時の果皮色が濃く、果頂部に青みが残る「青粒」の発生も減少します（図1、表1）。
- 果粒重、糖度及び酸含量への影響はほとんどなく、商品性を低下させるような汚れや果粉の溶脱もみられません。
- S-ABAを果房に散布しても、果実硬度は無処理の場合と同程度です。収穫当日の引張強度（穂軸から果粒を取るときに必要な力）がやや低いものの、脱粒を生じさせる程度ではありません。

活用場面

「オーロラブラック」の果房にS-ABA液剤を散布すると、果皮の着色が促進されて果実品質が向上するため、農業所得の増加に大きく貢献します。